

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

「学童保育×作業療法」

コンサル テーション

監修 小林 隆司

編著 八重樫實之

佐藤 葉子

糸山 智栄

入門

地域に出よう！
作業療法士

B5判160頁 2420円(税込)

子どもの特性・環境・友だち・支援者の関わり

コンサル20事例で学ぶ

子ども理解と放課後の生活、作業療法コンサル理論入門と実際
これであなたも地域で活躍できる！

絵本に こども 伝える 認知症

さく
藤川幸之助

20×24・7cm・29頁
各1980円(税込)

作者の介護体験をもとに、認知症のある祖父母・家族の関わりを孫の視点で描きます。

赤ちゃん キューちゃん 宮本ジジ/え

おじいちゃんの手帳 よしだよしえい/え

一本の線をひくと 寺田智恵/え

赤いスパゲッチ 寺田智恵/え

じいちゃん、出発進行！

天野勢津子/え

好評発売！



クリエイツかもがわ
CREATES KAMOGAWA

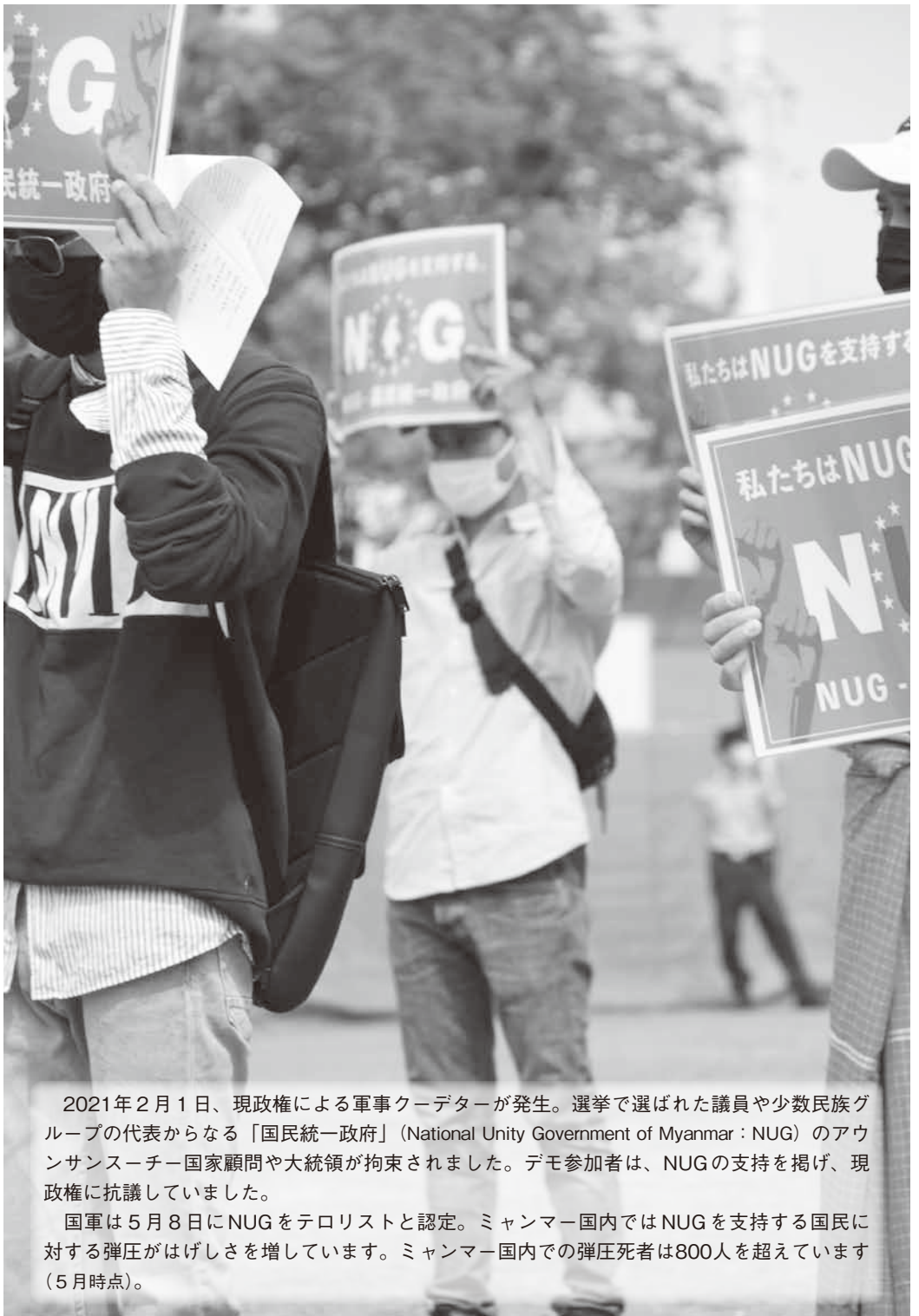
〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町21 <https://www.create-k.co.jp>
TEL 075(661)5741 FAX 075(693)6605 送料240円(5000円以上無料)

心から望まれる民主主義のあい方

～軍事クーデターから半年のミャンマーにこの声とどけ!～



6月6日、神戸市内の公園で、ミャンマー軍事政権の流れを受け継ぐ現政権に対して、民主化を求めるデモがおこなわれました。会場には80名ほどの在日ミャンマー人が集結し、抗議の声を上げました。デモには日本に留学中の若者が多く参加し、ミャンマーの民主化を訴えていました。



2021年2月1日、現政権による軍事クーデターが発生。選挙で選ばれた議員や少数民族グループの代表からなる「国民統一政府」（National Unity Government of Myanmar : NUG）のアウンサンスーチー国家顧問や大統領が拘束されました。デモ参加者は、NUGの支持を掲げ、現政権に抗議していました。

国軍は5月8日にNUGをテロリストと認定。ミャンマー国内ではNUGを支持する国民に対する弾圧がはげしさを増しています。ミャンマー国内での弾圧死者は800人を超えています（5月時点）。



ミャンマーには、130あまりの少数民族がいます。デモには少数民族であるカレン族の留学生の若者も参加していました（写真）。女性が着用している服は、カレン族の民族衣装だそうです。男性がもつポスターに描かれている絵のもとなったのが、左下の写真です。

ミャンマー国内では、7歳から16歳の子ども・若者43人が国軍による空爆等で亡くなっています（4月1日時点）。デモ参加者のなかには、「小さな子どもが死んでいる。私たちが立ち上がらなければならない」と訴える若者もいました。カレン族の子どもの屈託のない笑顔と反比例するような背景の焼け野原に、ミャンマー国内の惨状が表れています。





ミャンマーのデモでは、人差し指、中指、薬指を掲げるポーズが象徴的です。このポーズにこめられている意味は「抵抗」です。映画『ハンガーゲーム』の劇中で独裁への抵抗を表していたポーズが、ミャンマー民主化運動のなかにも取り入れられているそうです。

いま、国軍によってミャンマー国内のインターネットが遮断され、外からでは内側の状況がわかりません。「国内の状況がわからない、ミャンマーにいる家族が心配」。デモ参加者からはそうした声も聞かれます。一刻もはやい民主化が希求されています。（写真・文 高倉弘士）

●特集● 障害のある人が地域で暮らし、はたらく

福祉がまちを元気にする	山下美佐子	10
なかまの要望をかたちに くるみ会の活動	池田悟・潮崎弘明	14
障害のある人たちを主人公に、彼らの生きやすい地域をめざす	大畠 宗宏	16

●トピックス●

学び、考えつづけていかなければいけない「人間の尊厳」	寺脇 直美・弘隆	22
精神障害者と病いの語り／差別との対峙	山本 耕平	28

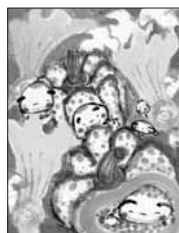
●サブ特集● 私たちはこんな政治・社会をのぞみます

人生の主人公になるということ	未来を拓くゼミナール	30
政治が自分の人生と結び付けられるように	中瀬 萌	33
当事者の声をきいてほしい	由井 友紀	36
「骨太の方針2021」における社会福祉・社会保障について	長友 薫輝	38
【PHOTO】ズームイン！ 大阪府立障害児学校教職員組合		42

●連載●

WORK WORK——わくワク——		46
世界にひとつ！ 一点一点が、身につけられるアート作品のようなTシャツ		
★新連載★ミリタンが実現するフランスの福祉		
「社会を変化させる」ソーシャルワーク	安發 明子	48
かさねあい、はぐくみあう保育実践		
7か国の子どもたちが通う保育園として	古川 佳那	50
★新連載★タ映えのとき～人生の終え方を支える実践～		
悔いを残させない最期の時間	松下かほる	54
JOB&ACTION 全国福祉保育労働組合（6）		
「福祉人材確保指針」を根拠に適切な給与水準を求める		58
私の履歴書 社会福祉経営全国会議（6）		
振り返れば行きがかりでやってきた私	佐藤 匡子	60
阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（26）	水野阿修羅	62
相談室の窓から 思春期・青年期の自己形成	青木 道忠	64
育つ風景 ぶっつけ本番	清水 玲子	66
ひととしてあたりまえに生きたい		
施設建設委員長として（1）	清田 廣	68
映画案内 『ホテル』	吉村 英夫	70
現代の貧困を訪ねて	生田 武志	72
小柳伸顕著『釜ヶ崎現場ノート 1975年～2007年』（2021年）		
似らすとれーしょん道場 マンガみたいな二刀流じゃ！ ラッキー植松		74
ホームレスから日本をみれば	ありむら潜	76
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ	77

●表紙の絵●
神門やす子



「日本高齢者人権宣言」から「高齢者人権条約」制定へ

日本高齢期運動連絡会事務局長 武市 和彦

私は現在、東京都文京区在住です。定年退職後、文京区の社会福祉協議会から声がかかり、高齢者を対象にした※フレイルサポーター、一人暮らしの男性高齢者の社会参加を目標にしたミツバチの養蜂活動ようほうに参加しています。こども食堂の運営にも関わっています。「ひとりぼっちの高齢者をなくそう!」をスローガンとした高齢期運動の活動とともに、高齢者の社会参加、活動実践にもとりくみ、毎日いそがしい日々を送っています。さて、日本高齢期運動連絡会は、二〇二〇年の総会で「日本高齢者人権宣言」(第一次草案)を提案し、二〇二二年の総会までの二年間、全国で学習と議論をすすめ、成案にすることをめざしています。

私たちは、「高齢者人権条約」の国連総会での制定を当面の運動目標としています。国連に「高齢化に関するワーキンググループ」が設置されて今年までに一回のワーキンググループが開催され、私たちも毎回代表団を国連に派遣してきました。昨年、国連は創立七五年調査のなかで、国連の最優先課題として不平等へのとりくみと人権の実現を国連の中心的な事項として特定しました。不平等に関するとりくみとして、「高齢者の権利を保護するための国連条約の創設を促進する」という勧告をおこないました。

来年二〇二二年は第二回高齢化に関する世界会議・NGO世界集会(スペイン・マドリッド開催)から二〇年の節目の年です。私たちは、世界各国のNGO、政府代表へ「高齢者人権条約」制定、「日本高齢者人権宣言」の普及活動をすすめています。そのために、「日本高齢者人権宣言」の英語版パンフレットも作成しました。



たけいち かずひこ

日本高齢期運動連絡会事務局長、日本高齢期運動サポートセンター理事、本誌全国編集委員。

企業にエンジニアとして入職後、医療福祉生協の法人に転職し40年間勤務。第30回日本高齢者大会in東京以降、高齢期運動に関わるようになり、3年前に事務局長に就任。

私たちは「日本高齢者人権宣言」を学び、広く普及する活動を大いに広げ、高齢者人権宣言と現在の日本の人権状況を対比し、高齢者人権宣言でめざす社会実現の活動をすすめていくことを通じて、「国連高齢者人権条約」制定をめざす活動を推し進めています。「国連高齢者人権条約」が国連で制定されたあとは、日本政府に批准を求める活動です。この間の国連で制定された人権条約の採択から日本政府批准までには、「子どもの権利条約」（一九八九年採択、一九九四年批准）のように数年を要しています。日本政府に批准を求める活動は、「日本高齢者人権宣言」の内容の実施をめざす世論形成が必要です。

「国連高齢者人権条約」が批准されれば、締結国による条約の遵守状況をチェックしフォローアップする委員会や、報告制度が義務づけられており、各国政府から条約上の権利を実現するために取った措置などについて報告書が求められることになります。国連が認めるNGOも意見書を提出することができます。条約が国内法秩序において占める地位は国によって違いますが、日本では条約遵守義務を定めた憲法九八条二項の規定から、国が批准しないし加入した条約は国内法より優位となります。

みなさん、「高齢者人権宣言」ぜひ一読ください。

（日本高齢期運動連絡会→www.nihonkouren.jp 参照）

※フレイルとは、健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態のこと。

障害のある人が地域で暮らし、はたらく

今号の特集は、「障害のある人が地域で暮らし、はたらく」です。このタイトルには、「障害のある人が地域で暮らし、働くことを支える福祉実践」という意味と、「障害のある人が地域で暮らし、働くことが、いまの社会のあり方に投げかけていることを考えたい」という思いを込めています。

特集では、京都府北部の丹後を中心に活動されている「よさのうみ福祉会」と、埼玉県川越市で活動されている「川越いもの子作業所」に登場していただきました。よさのうみ福祉会では、地域産業の衰退や過疎化がすすむなかで、福祉が地域産業の中心となり、行政や他の地域産業、住民の人たちと共同して地域の活性化にとりくんでいることを話してくださいました。いもの子作業所の大畠総合施設長は、施設づくりに対する住民の反対運動に向き合うなかで、住民の方が「（作業所ができたことが）地域としてもすごくよかった」と声をかけてくださったことで、「新たなフェーズ（局面）に入っただように感じた」と話されました。

「障害のある人のために」と地域にお願いして一方的に受け入れてもらうのではなく、福祉施設ができることが地域にとってもよろこばしいことであるという関係性になわつてきていることを、二つの法人のお話を聞いて、共通して感じました。

もちろん、現実はある甘いものではありません。トピックスで登場してくださった寺脇さんご夫妻のお話のように、病気や障害のある人たちへの想像を絶する差別は、いまだにいたるところで起き

ています。障害のある人の居場所、働く場、住まいの問題も深刻です。

ですが、いま毎日一人を越える新型コロナウイルス新規感染者が出ているにもかかわらず、オリンピックをつけ、国民の暮らしとはかけ離れた感動を演出する政府に、違和感をもつ人たちは少なくないはずです。都会中心、大企業中心、できる人中心の社会のなかで、生きづらさや疑問を感じ、「一人ひとりのいのちと暮らし」を大切にすることに次の社会への希望を見出している人も少なくないのではないのでしょうか。

サブ特集では、今年の秋にかならずおこなわれる衆院総選挙に向け、「骨太方針二〇二二」の問題点と、当事者の方たちの政治や社会への声を紹介しました。トピックスの寺脇さんご夫妻のお話も合わせて、あらためて当事者の方の声はもつとも心を動かされ、つまりは社会を動かす力をもっていると感じます。私たち一人ひとりが、福祉労働者として、子育てと仕事の両立に奮闘する親として、日本の国民当事者（主人公）です。なにを大切に生きていきたいのか、どんな社会であってほしいのか、子どもたちになにを伝え、どんな社会を残していきたいのか、私たち一人ひとりが考え、自分の言葉にしていくことが、当事者として大きな力になります。

国民のいのちを犠牲にオリンピックを開催したものの、ネットニュースには諸外国からの日本政府への不審・不満が溢れています。だれに向かってなにを発信したいのか、表面だけの演出の実相が次々とあぶり出されています。外見だけをとりつくり、一部の人たちの利益を優先する政治ではなく、一人ひとりのいのちと暮らしを大切にすることで見えてくる社会の可能性を、本誌では発信していきたいと思っています。

（編集主任）